

ニュースを検索

トップ 国内 海外 経済 芸能・エンタメ スポーツ IT トレンド 雑誌 今日のニ

ニュース トレンド 話題 記事 ○糖尿病

5種類以上の薬の服用は要注意... 国を破綻させる「ムダな医療」

いいね! 0 シェア ツイート

2020年04月04日 11時31分 [デイリー新潮](#)

■国を破綻させる「ムダな医療」 (3/4)

困難な問題に取り組む際には、手近なところから着手するのが鉄則である。膨張する医療費と細る財政とのバランスをいかに保つか。遠大な課題であるが、まず隗（かい）より始めよ。医療現場は、やらなくてもいい、やるのは害という「ムダな医療」で溢れているのである。



飢饉に苦しむアフリカで奇病が流行した。撲滅に向かった「モグリ」の医師。手塚治虫『ブラック・ジャック』の一篇である。命の危機に陥りながら、彼は病の制圧に成功。が、自問自答する。医者とは人間の命を助ける。が、それで人口爆発が起これ、食糧危機で何億人もが死んでいく……。医療は何のためにあるのか。

[厚労省も頭が痛い](#)

この作品が描かれたのは、1970年代。それから半世紀を経て、医療の発展は人の寿命を延ばし、新薬は様々な難病をも克服しようとしている。しかし、それによって医療費は膨張し、公的保険は危機に。崩壊すれば、失われる命はどれほどになるのか。我々はブラック・ジャックとは違った形で、実は同じ問題のとば口に立っているのかもしれない。

最新の日本の国民医療費は約43兆円。この10年で9兆円増加している。うち4割を公費が支えているが、国の財政が赤字続きなのは周知の通りだ。点滴投与1回で2億円かかる薬も保険適用が決まるなど、医療の高度化に伴って、かかる費用は増す一方。であるからこそ、医療の無駄をなくし、高度医療に集中すべし。限りある資源を適正配置する。これが喫緊の課題であることを、(1)で述べ、この10年、アメリカの医学界に起こった「Choosing Wisely (チュージング ワイズリー) (賢い選択)」運動を基に、「無駄な医療」の具体例を挙げてきた。

そのうち、薬については、

〈風邪に抗生物質を使わない〉

〈認知症では無計画にコリンエステラーゼ阻害薬を処方しない〉

〈75歳以上の高血圧は下げすぎに留意する〉

〈高齢者にLDL（悪玉）コレステロールを下げる薬は不要〉

を紹介した。

「過剰医療」はそれ自体が無駄であるのに加え、副作用が次の病を生み、また医療費は膨張する……。

以下の例はその典型とも言えるだろう。

高齢者が不眠を訴えるのはよくある。そこで病院に赴くと睡眠薬が処方される。それがベンゾジアゼピン系と呼ばれる薬であることは珍しくないが、

「不眠治療にベンゾ系の睡眠薬を安易に用いる。これには十分注意すべきです」

と言うのは、兵庫県立ひょうご こころの医療センターの小田陽彦・認知症疾患医療センター長である。

この薬は、催眠、抗不安、鎮静などに作用する脳の「ベンゾジアゼピン受容体」に働きかける。ここを刺激することで、脳の興奮を抑え、睡眠を誘導する、といったものである。

具体的には、商品名で「デパス」「ワイパックス」「メイラックス」などの薬が挙げられる。しかし、

「この薬を毎日飲むと依存が形成されます。すなわち毎日飲み続けた後に中止すると、不眠、不安、焦燥感、頭痛、嘔吐などの禁断症状が起こるのです。そのせいで薬をやめにくくなり、通院が長期化し費用がかさみます。加えて高齢者がベンゾ系の睡眠薬を服用すると、起きながらにして夢うつつとなる『せん妄状態』に陥りやすくなります。歩行が不安定となるので、転倒し骨折する確率も5割ほど上がります。更にはこの薬で認知機能が衰え、認知症と誤診される高齢者もいます。慎重に薬を中止すれば認知機能は回復しますが、飲み続ける限り回復しません」（同）

ベンゾ系の薬は、睡眠薬としてだけでなく、抗不安薬、あるいは肩こりにも効く「万能薬」として重宝されている。厚労省のレセプト情報データベース（NDB）によれば、2017年度、ベンゾ系で最も処方された薬「デパス」は外来で約58億円分処方されている。

「わかりやすく言えば、この薬は“エクスタシー”より、有害性、依存性が高いのです」

とは、名古屋市立大学睡眠医療センター長の中山明峰氏。

エクスタシーとは「MDMA」の名でも知られる。最近では沢尻エリカが所持していたとして有罪判決を受けた合成麻薬だ。

「2007年に医学雑誌『ランセット』が公表した値によれば、ベンゾ系製剤の有害性は3段階で約1・5、依存性は約2でした。対してエクスタシーはそれぞれ約1。そんなこともあり、国連は2010年、この薬を乱用している国を発表しています。日本は世界で最上位のグループに位置し、アジアでは1位でした」（同）

その弊害ゆえ、

「厚労省はこれらを『麻薬類似薬』とし、2018年には、減薬した場合、加算されるように診療報酬を改定しています」（同）

睡眠薬が処方されたら、その薬が何かよく聞くのは必須。むろん睡眠薬には、ベンゾ系以外のものもある。

前出の「Choosing Wisely」のリストにも、睡眠薬についての項目はある。

〈高齢者の不眠等の第1選択としてベンゾジアゼピン系の薬を使用しない〉

改めてこの運動について説明すると、発祥は2012年のアメリカ。外科や内科など、約80の学会が計600項目にも亘るリストを提示し、医療界からの自浄作用として「無駄な医療」に警鐘を鳴らしている。現在では、日本を含め、世界各地に広がっている。

■残薬年間1兆円!?

〈五つ以上の薬を使っている人に医薬品を処方しない〉

お年寄りが毎食後、何錠もの薬を取り出し、一気に飲み下す——という光景をどこかで見た向きも少なくないだろう。これは「多剤服用」と言われる。

年を重ねれば、高血圧に高コレステロール血症、認知症など、心身のあちこちにガタが来る。患者は症状ごとにそれぞれの病院や診療科にかかるケースが少なくない。高血圧なら循環器内科、認知症なら神経内科に向かい、それぞれで薬を処方される。

そして、ある薬で副作用が出ると、別の薬で手当てしようとし、それを繰り返す。これは「処方カスケード」と呼ばれるが、こうした理由で、薬がどんどん増えていくのである。

2016年の保険薬局における調剤統計によれば、75歳以上の約25%が7種類以上、約40%が5種類以上の薬を処方されているというが、

「これだけたくさんの薬を飲むと、当然、さまざまな弊害が出る可能性があります」

と言うのは、「たかせクリニック」の高瀬義昌理事長である。高瀬氏は、厚労省による「高齢者医薬品適正使用ガイドライン作成ワーキンググループ」のメンバーでもある。

「高齢になると、肝臓や腎臓の機能は低下していきます。肝機能が低下すると、薬を代謝する能力が落ち、腎機能が落ちれば、老廃物を尿、そして体外へ排出する能力が落ちます。そうなるとう若い時よりも薬が身体に影響を及ぼしやすくなり、副作用も増すのです」
(同)

それが何種類も、となるのだからそのデメリットは計り知れない。

東大病院の調査によれば、5種類以上の薬を2年間に亘って併用した高齢者は転倒の発生率が40%にも上った。6種類以上服用した高齢者は副作用の発生率が15%になったという。

「私が診たケースでも、20種類も処方されている患者さんがいました。認知症で神経内科に通い、神経伝達物質・アセチルコリンを増やす薬を処方されていました。一方で、頻尿に悩んで泌尿器科に通い、排尿の回数を減らすために、今度はアセチルコリンの働きを阻害する薬を処方されたんです。これを両方服用して精神神経症状が不安定になり、重篤な状態になっていました」 (同)

「お薬手帳」があれば、あるいは機能していれば、こうした弊害は防げたのかもしれない。

このように、多剤服用によって、身体に害が及んだ状態を「ポリファーマシー」と言う。

そして当然、これは医療費の膨張にもつながる。

「副作用の方が大きいような薬を飲み続けるのは無駄です。あるいはこれだけ多くの薬を処方されても飲みきれず、家にためこんだり、もらう度に捨てたりしている人もいます。私自身も、179日分、5千錠の薬を放置していた患者さんを見たことがあります」 (同)

17種類もの薬を処方された患者を見た高瀬理事長。それを4種類に減らしたところ副作用はなくなり、年間の薬代（保険適用前）は26万円も下がった。

こうした「残薬」は国全体で莫大な量に達している。やや古いデータだが、2007年度、日本薬剤師会の調査によれば、日本で年間、約500億円分の残薬が出ているという。

「しかし、これは、患者が家で服用するために処方された薬のうち、捨てられてしまった『家庭内残薬』。これとは別に医療機関で捨てられる『院内残薬』も年間1千億円以上あ

ると言われています。これでも氷山の一角で、実際の残薬は年間1兆円ほどになるのでは、と疑っているくらいです」(同)

1兆円がもし浮けば、どれほど財源に余裕が生まれることか。国も「ポリファーマシー」を問題視し、2018~19年に「適正使用の指針」を取りまとめている。

「週刊新潮」2020年4月2日号 掲載

いいね! 0 シェア ツイート



関連記事 (外部サイト)

[CT検診に潜むリスク、高齢者にコレステロール降下薬は不要 国を破綻させる「ムダな医療」](#)

[調剤薬局によって料金が違う!? 処方薬の代金を少しでも安くするために知っておくべき2つのこと](#)

[「アルツハイマー予防」に既存薬が劇的効果 大阪市立大教授が発見、メカニズムを解説](#)

[俺「楽しんで稼ぐならコレ」 翻訳副業なら誰でも月収100万円? PR](#)

「糖尿病」の記事

[【新型コロナウイルス】高血圧、糖尿病、心疾患などの基礎疾患があると重症化リスク 唾液の働きに認知症予防も](#)

[新型コロナの影響で消えたテレビCMとは? その深すぎるワケ](#)

[医師「運動で痩せるのは大間違い」9割の更年期女性が15日で8kg...](#)

PR(株式会社ヘルスアップ)

[中国製マスクの品質問題が欧州で続発、中国紙社説「中国も外国も冷静...](#)

[実はシミは市販品で消えるよ?医師\(45\)が大暴露して炎上中](#)

PR(ロックスタ)

[台湾が「防疫外交」展開、各国にマスク1000万枚供与](#)

[酪酸菌が欠かせない本当の理由。新しい腸の整え方](#)

[富士フィルム、治験開始 = アビガン、増産も準備 - 新型コロナ](#)